

関心高い「終活」

町公民館
セミナー
トランプル回避学ぶ

箕輪

箕輪町公民館が15日に開いた、人生の締めくくり方を考える「終活セミナー」が、熟年世代の人気を集め、町内外から予想を上回る約100人の聴講者が集まった。少



満場の受講者を集め、好評を博した終活セミナー

子、高齢者世帯が増え、核家族化が進むにつれ、家族や親類らに迷惑、負担をかけず人生を終えたいと願う人も増えている。セミナーは「そんな世相を反映して町民ニーズに合致できた」と、同館職員。

反響の大きさに驚きつつ、「新年度はもっと多くの受講者を受け入れ、内容も充実させた」と意気込んでいる。

「人生の最後を考える終活セミナー」と題して、エンディングノートや遺言書を書く目的と書き方、遺産相続の法的な基礎知識を学ぶ内容。相続手続支援センター（松本市）の相続専門相談員、清水あゆ子さんが講師を務めた。清水さんは、法定相続の仕

組みを図解し、トランプルの事例を挙げて、「遺された配偶者の負担は非常に大きいうえ、葬儀費用の負担の仕方一つも兄弟、親族間の争いを生みかねない。『自分が死んだら家族が何とかしてくれる』という発想が通らない時代」と指摘。遺族の負担軽減や、トランプル回避の手段として、エンディングノートや遺言書の作成をアドバイスした。

今回のセミナーは、町公民館が昨夏から開いてきた「いきいきライフセミナー」の一講座。家計や保険の見直し、インテリア、整理収納術など暮らしの充実とつながるおいをテーマにさまざまなメニューを展開してきた。

終活の好評ぶりに、今後は、「相続問題、エンディングノートなどそれぞれについてより深く、詳細に学べるように講座を設営し、生き方そのものを見つめる場を提供したい」としている。